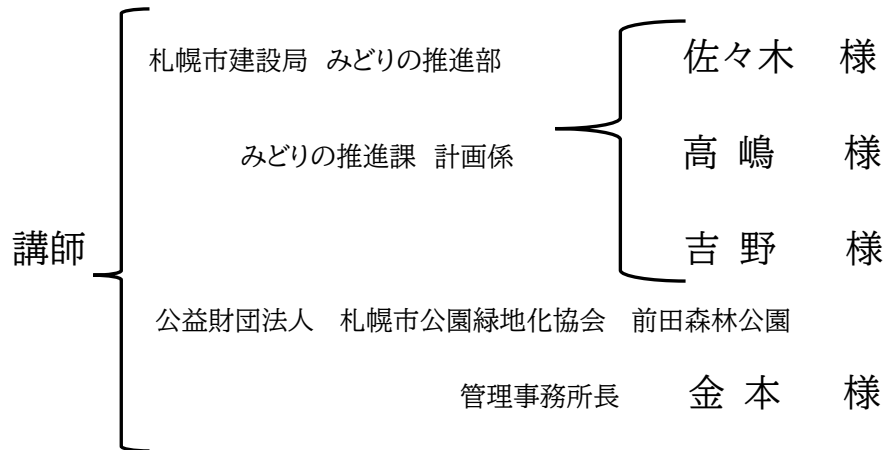




[令和 7 年 3 月 12 日 定例会発表要旨]

前田森林公園の歴史とこれから



カナル 金色の晩秋



講師の 4 名

札幌市建設局みどりの推進部、札幌市公園緑化協会から下記3テーマの説明を行った。

1. 前田森林公園の成り立ち

前田森林公園は、手稲山へ伸びるカナルとポプラ並木による雄大な景色や野球場、パークゴルフ場といったスポーツ施設を楽しむことができる約 60ha の総合公園である。

<造成経緯>

昭和 49 年に都市計画決定し、昭和 52 年には「市民記念植樹祭」を開催している。整備は、札幌市の自然条件を生かして市街地を公園・緑地の帯で包み込もうという『環状グリーンベルト構想』の拠点公園として進められた。昭和 57 年に造成工事を開始し、平成 4 年に全面供用した。

<公園のデザインの成り立ち>

公園の基本的なデザインは、昭和 57 年に実施した基本設計の成果をベースとし、その後の詳細な設計(実施設計)に伴い検討が重ねられ、現在の形になったと思われる。

基本設計では、様々な特徴の森が設定され、これらは現在の「ふるさとの森」「つどいの森」「野鳥の森」等となり、『森林公園』を構成する大きな要素となっている。

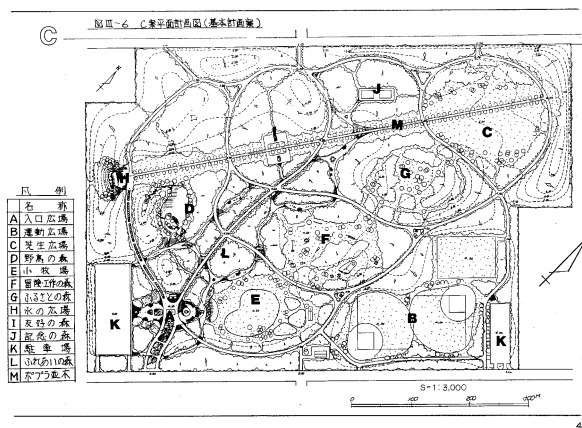
また、公園用地は農耕地だったため、平坦な地形条件であった。そこで、手稲山の景観は視覚の立体的な変化を導くポイントとして重視され、手稲山への景観軸を考慮して「並木道」や「壁泉」が配置された。

一方、基本設計では特徴的施設である「カナル」は想定されていなかった。造成経緯について職員が記した資料によると、ポプラ並木の景観的な要素をさらにアップするため、フランスのソー園をモデルとし、幅 15m 長 600m のカナルを設けたとの記述がある。

ソー園は、『フランス式庭園』を確立させたル・ノートルが手掛けた庭園。ソー園にも GRAND CANAL と呼ばれる大運河があり、両側に配置された並木とともに壮大な景観を作り出している。



昭和 52 年 公園造成前(畑作・牧草地)



昭和 57 年基本設計 平面計画図

<公園の拡張>

全面供用後、公園は多くの利用者で賑わいを見せていた。一方、トイレや駐車場の不足し、施設の増設を求める声も高まっていたことから、隣接地約 17ha を使った公園拡張を行った。拡張部は平成 13 年に造成工事を開始し、平成 18 年に全面供用した。



賑わいの様子

公園拡張は、市民意見の収集や公園の利活用促進を目的とした『参加の場』を設けながら進められた。平成 13 年に実施した『サポーター講座』の開催後には、継続的に公園のサポーターとして活動する組織として「前田森林公園凸凹クラブ」が結成され、現在も「自然観察会」や「トンカチ広場」といった活動を行っている。



昭和 57 年基本設計の鳥観図



現在のカナル(令和 3 年撮影)

2 前田森林公園の管理運営について

前田森林公園の指定管理者である公園緑化協会の金本氏が、前田森林公園の管理運営についての説明を行った。

現在の前田森林公園の植物や生物、防災機能及びボランティア活動や利活用の状況等についてパンフレットや多数の写真を用いて、管理者目線で幅広い分野について説明した。



前田森林公園(北側)見取り図



前田森林公園の春の花

3 札幌市の公園の現状とこれから

<都市公園の整備>

札幌市の都市計画は、基盤の目を基本とした街路づくりと、計画的な都市公園の配置を進めるなど、全国でも極めて先進的なもので、現在の都市公園は 2,700 か所を超え、政令指定都市の中で最も多い公園数となっている。

また、戦後、町村合併や冬季オリンピック札幌大会を契機に人口が増加し、市街地が拡大していた。このため、「環状グリーンベルト構想」を昭和 57 年(1982 年)に策定し、市街地をみどりの帯で包み込むように森林や農地の保全・大規模公園の整備を進めてきた。

<札幌市の公園再整備の考え方について>

札幌市には、身近な公園が数多く存在している。維持管理にかかる予算の制約や人口減少社会の到来を見据え、将来にわたって公園を維持していくため、公園ごとの機能を分担し、設置する遊具などの施設について、地域の方々のご意見を伺いながらメリハリを付けるような公園再整備事業を平成 28 年度から展開している。



”安らぎの場”として整備された機能特化公園
(左:整備前、右:整備後)

次回定例会 5月14日【水】 18時15分 区民センター3階視聴覚室

発表内容「熊まつり」手稲郷土史研究会会員 特別顧問 茂内義雄 様

手稲郷土史研究会 会報「郷土史でいね」第 204 号 令和 7 年 4 月 9 日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：立花邦雄・川上義昭・伊藤政克

♣006-0818 札幌市手稲区前田 8 条 11 丁目 4-5 林俊一方 手稲郷土史研究会

*TEL 090-3381-4994 *FAX 011-682-9874

♣メールアドレス teinenorekish@gmail.com 担当 菊池 博行